



## 事業の多角化がもたらす おいしいの基盤

大阪公立大学  
牧野 至皓



### ■「おいしい」を支える仕組み

「おいしい」に関わる要因には多くのものがあるが、それらを支えているのは事業の安定性を支える仕組みも重要であると考え。特に、事業の多角化がもたらす安定性こそ、「おいしい」と「密接に」関わる要因として挙げられるのではないだろうか。

上野山ら(2022)によると、多角化の主要な動機の一つに、プロダクト・ライフサイクルという概念が挙げられている。あらゆる製品やサービスは、一般的に導入期→成長期→成熟期→衰退期という過程を持っており、この過程のことをプロダクト・ライフサイクルとしている。既存事業が成熟や衰退を迎えようとするとき、その寿命を延ばす方法が潰れたときのリスクに備えるために多角化するため、多角化は事業の経済面での安定性を強化する。

田尻漁港でも、このような多角化による経済面での安定性の獲得が見受けられる。ここで、個の多角化と公の多角化に注目する。個の多角化は、一人の漁師や一つの事業における安定性をもたらす多角化のことを指す。公の多角化とは、田尻漁港全体における安定性をもたらす多角化のことを指す。これら二つの多角化の枠組みをもとに、田尻の漁師へのインタビューや情報収集をもとに、「おいしい」を支える仕組みについて考察する。

### ■多角化を構成する様々な事業

田尻漁港の多角化を構成する事業には、朝市をはじめ多くのものがある。

田尻漁港の朝市は、毎週日曜日に開催されており、魚介類をはじめ塩干、天ぷら、野菜等が販売されている。

しかし、はじめから多くの種類が販売されていた訳ではなく、最初は漁師数名での出店から始ま

り、公の多角化が築かるようになった。そこから、魚屋が加工品を販売するなど規模が拡大した。

また、漁港内では養殖、カキ小屋、BBQ等の幅広い事業を展開するようになり、個の多角化が構築

されるようになった。

また、田尻漁港では朝市以外にも、釣り堀やヨット・ボート、ジェットスキー、テナント等が楽

しめる。海釣ぱーと田尻(2023)によると、釣り堀は一年を通して営業しており、ひとりで来る方や

家族連れまで、様々な方が訪れている。また、青木ヨット株式会社(2023)によると、田尻漁港では

ヨットやボートのスクールがあり、船舶免許の取得も可能である。さらに、テナントではコーヒー

やお酒、軽食、お寿司等を楽しむことができる。漁業組合は、釣り堀から売り上げの一部、テナン

トからはテナント料を得ており、ここからも多角化による安定性が見られる。

このように、田尻漁港は個と公、そして両方の多角化により、経済面での安定性を保有すること

ができ、これらを基盤に消費者に「おいしい」を継続的に提供することができるのではないかと

考える。



写真1 釣り堀(写真奥)



写真2 様々なテナント

#### 参考文献

- 1) 青木ヨット株式会社HP, <https://www.aokiyacht.com/>, アクセス日時:2023年6月23日
- 2) 海釣ぱーと田尻HP, <http://www.osaka-tajiri.com/>, アクセス日時:2023年6月23日
- 3) 北居明・松本雄一・鈴木竜太・上野山達哉・島田善道:経営学ファーストステップ, 八千代出版, 2022年